

# 「太平山麓九条の会」だより

事務局：須黒法律会計事務所 〒328-0027 栃木市今泉町 2-4-18 FAX0282-22-3757

電話連絡先0282-22-7079(増田)

Eメール [oohirasanroku9jc@yahoo.co.jp](mailto:oohirasanroku9jc@yahoo.co.jp)

HP：太平山麓九条の会で検索



146号

2019年7月26日発行

## 小さな無数の希望・九条の会 平和を守り抜く意志を引き継ごう



2004年春未だき時、自衛隊のイラク派兵・・・衝撃の走る中で6月、日本の知性と良心を代表する文化人9人が呼びかけ人となって『九条の会』が発足した。

『九条の会』呼びかけ人の一人、加藤周一の講演会収録著作『私たちの希望はどこにあるのか』は、環境や政治や教育や・・・を考える小さなグループが、10名や20名といった小さなグループが無数にある、そこに希望がある、と語っている。

地域の友人、先輩の多くが『九条の会』を歓迎、一年後の9月には『九条の会・栃木』が県内の良心を結集して発足。そして、我が街にも！の思いは2005年12月の「九条を守ろう、懇談会」からスタート、準備を重ねて『九条の会』発足から2年目の7月『太平山麓九条の会』は動き出した。今、『九条の会』発足から15年を経て、全国の“小さな無数の希望”は団体数7500余の希望となって繋ぎ合っている。

15年間、しかし「9条改憲」の足音は高まり危うさが増している。米トランプ大統領の「日米安保条約不公平」発言に意を受けた安倍首相の意気込み・・・。

「九条の会・栃木」や「太平山麓九条の会」の発足記念集会のオープニングに演奏された「イマジン」・・・“想像力こそ平和の力”。戦争の無意味、悲惨を想像する力を持つことができれば、戦争への道筋をきっぱりと断つことができる筈なのに・・・。改憲勢力には“イマジン”の一片も無いのか。

1987年に発表された旧栃木市の「非核平和都市宣言」、この10年目の1996年(H8)には栃木市総合運動公園の体育館脇に平和モニュメント「碑」が設置された。これは広島・長崎の原爆で子を亡くした母、母を奪われた子供たちの手記を構成した朗読劇「この子たちの夏 1945—ヒロシマ・ナガサキ」の上演活動を6年間に亘り続けて来た市民グループが、その上演益金でブロンズ像「碑」購入、栃木市が設置した“協同”の事業によって成し遂げられたものだ。

合併後の栃木市は新たな「非核平和都市宣言」を持った。この貴重な財産の意味と平和を守り抜く意志を、平和モニュメント「碑」とともに引き継いでいきたい。“イマジン”を喚起するために・・・。

(解子 記)

### 映画

「誰のために憲法はある」を見て

K・S 記



スクリーンに渡辺美佐子が演じる「憲法くん」が語る。「戦後、一度と戦争があつてはならないという思いで私は生まれ、それは理想となるもので、私の魂は憲法の前文に書かれています。しかし、近頃私がリストラされるという話が出ていますか・・・現実には合わないからと。それは違う。理想なるものが存在するのに、何故そこに向かって進まないのか。」と。前文を暗唱。私は見ながら頷くことが多かった。今、正に平和主義に反する軍備増強、行動や言論の規制等、誰かの「唯一の被爆国」への想いの軽さ！恐ろしい事態です。

場面は変わり、美佐子さんが原爆朗読劇を開始する動機となった経緯を語る。小学生の初恋の人が疎開先の広島で亡くなったことを1980年に知る。その後、鎮魂の想いを込め、33年間「夏の雲を忘れない」を全国で上演。舞台上で8人の女優が交互に朗読。バックに子供の笑顔。原爆投下され、子どもたちが被爆した身体の状態を語る。痛ましい状況が浮かぶ。そしてなくなる子の最後の言葉、一番多かったのが「お母ちゃん、万歳」ああやっぱりお母ちゃんなんだと思う。次いで「天皇陛下万歳」。何で？あゝあの時代なのだ。子どもも大人も一緒なんだ。各地での公演でこの場面が流れる。涙も流れます。こんな悲惨なことは嫌です。国民主権・平和主義・基本的人権の尊重を生かそう！改憲など絶対反対です。

# 課題「だらけ」百貨店政権に民主主義を見せつけたい

第25回参院選が終えた。50%をはるかに下回る低投票率を刻んで。

民主主義を体現する国民権の大切な機会であったのに、極めて残念なこと



私たちは憲法を軽んじ、足蹴にするように採決を強行して成立させた戦争法や特定秘密保護法、共謀罪などに対して正当な民主主義を踏みにじるものと考えてきた。参院選直前に明らかになった年金2000万円問題、アメリカによる保護主義に基づく貿易交渉の問題やイランをめぐる有志連合の問題など、私たちの生存権や平和的生存権、経済活動の自由を脅かす事案も意識せざるを得なくなった。まだまだある。沖縄辺野古の基地建設のこと、日米地位協定のこと、イージスアショア設置のこと、これらは安全保障の日米同盟に関わっている。個人の尊重に根を張る選択的夫婦別姓制度の是非のこと、専守防衛を旨とする自衛隊を根本的に変質させる九条の改定(改正ではない)を軸とする憲法改定のことなど挙げればきりが無い民主主義実現のための争点だらけの参院選であったはずだ。この「だらけ」を作り出したのは、もちろん現政権そのものだ。「だらけ」の課題が棚に並ぶ百貨店政権なのだ。事実の隠蔽改ざんも棚にある。

極めつけは消費税を10%に引き上げること。社会保障と財政の健全化を強調して今年の10月からの増税を現政権は目論んでいるが、どうもこれも怪しい。現首相の2次

政権参与を務めた京都大学教授は警告した(『世界』8月号)。「消費増税は愚策」であると。デフレ状態で経済成長していない状況では消費増税は破壊的なダメージをもたらすと説く。消費が冷え込む状況では経済全体を大きく停滞させると論ず。当然財政の健全化は絵に描いた餅となり、「だらけ」の棚の最上段にかなりの重量級の「借金」が置かれることとなる。富裕層と分断された貧困層にまで「一人〇〇〇万円」の借金値札がつけられてしまう。それをこともあろうに「社会保障充実のために財源が必要」とうそぶく国のリーダーっていったい何者なんでしょうか。怒る。「愚か者」と。

かくて、私たちは国民権を確実に行使する大きな絶好の機会として今回の選挙は位置づけるべきだったのです。議論しない現首相と与党に対して「民主主義ってなんだ」・・・「これだ」と投票意思で突きつけることが必要だったのではないのでしょうか。

最後に民主主義の根本とは「全ての人間を個人として尊厳な価値を持つものとして取り扱おうとする心」(文部省『民主主義』1948～1953 中学・高校社会科教科書より) (元井 茂 記)

## 子どもの心から憲法にふれる

弁護士伊藤真が「憲法の絵本」をつくった。絵は絵本作家の垂石まき。

はじめの見開きページはいっぱい、いろんな花、花、花。

次の見開きで子どもたちの顔の花に変わる。表情がみんな

違う。「みんなおなじで、みんなちがう」、その「ひとりひとりがたいせつ」。

絵本は日本国憲法三原則の根っこ「個人の尊厳」(第13条)ではじまる。

とげとげ花の男の子がドッチボールのボールを独り占め、かわいい花の女の子たちにつけて泣かしている。

「わがままで、いぼつている」いるねどうする？

「つよくて、ちからのあるひとたちにつけたブレイキそれがけんぼう」。

伊藤さんは憲法の大変な内容を子どもが感じとれるように話を進め、さいごに、

「もつとじゆうにもつとしあわせにいきるためひとびとは たたかかってきたそしてけんぼうをてにいれた」

はるかかなたから人の列がづき先頭の優しい顔の大人が花の女の子に宝の玉を手渡す。ビクビクした顔の女の子、これは第97条。宝の玉を手にした子どもたちは

それぞれの道を歩んでいく。未来へ向かって。

伊藤さんは「あなたは、せかいでたったひとりのたいせつなそんざい、あなたこそ、たからもの…」と子どもたちに語りかけておわる。

伊藤さんをあなたが語り、あなたの声を聞きながら、子どもは垂石さんの絵をしつかり読んで、年齢なりになにかを感じとるに違いない。

(郡司)



「お知らせ」 ●スタンディング 8月9日(火)市役所前 8月19日(金)ケイズ電器前 共に16時から  
●檻の俳句館・無言館日帰り見学旅行 10月24日(木) 費用:8000円 募集は9月から  
●スタッフ会議 8月9日(金)・8月23日(金)・9月5日(木)・9月20日(金) 13時30分から くららで